

一般社団法人モザンビークのいのちをつなぐ (PVM)



内戦・貧困を乗り越えたNHKでも取り上げられたアーティスト・社会活動家との出会いによる、
キャリア観拡張と自己肯定感を育む国際教育プログラム

未来を切り拓くクリエイティブパワー アーティストと創る 国際共生プログラム





はじめに

アートでセカイとつながり、 「未来を拓くチカラ」を磨く。

アフリカ × 日本：魂を揺さぶるトーク&ライブ。

「正解」のない時代。いま私たちに必要なのは、物事の本質を見極め、自らの指針を見出す「感性と知性」、そして何も無い場所から喜びを創り出す「創造的生存力（クリエイティブパワー）」です。
アフリカ・モザンビークで、内戦中に生まれ、絶望を歌に変えて生き抜いてきたアーティスト・ナジャ。彼の存在そのものが、見る人の心を揺さぶり、「自分にも何かできる」という自己肯定感に火を灯します。

紛争の地から届ける「本物のことば」。

私たちの活動拠点であるモザンビーク北部では、日本も関わる天然ガス開発の裏で、今もニュースにならない紛争が続いています。私たちは2013年からスラム地区の中心に根を張り、13年間、「信頼ベースのまっとうな活動」を続けてきました。現場でいのちに寄り添い続けてきたからこそ、届けられる真実があります。

【内容】

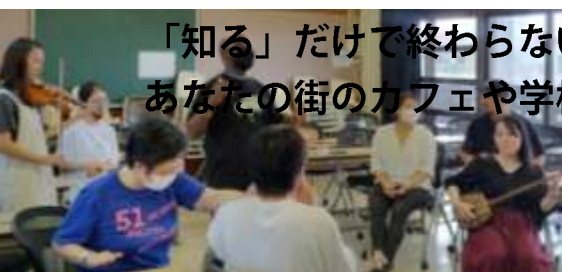
◆メイン：**Peace Groove トーク&ライブ**（ナジャの演奏と、現場のリアルを語る言葉で、平和と生きることを考える）

◆オプション：五感でつながる体験

Nicoichi国際絵画：（現地の子どもが描いた「半分の絵」の続きを日本で描く）

VR国際交流：（360度映像でスラムの日常を肌で感じる）

リズムセッション：（異なる音が調和する瞬間を体験する）



沖縄県立芸術大学での音楽共創授業



北九州の幼稚園でのダンス交流



大阪の小学校でのセッション



を。
せんか？



品川プリンスホテルでのミュージカルYASUKE



モザンビークのいのちをつなぐ会の役割

最貧国の最貧困地で

現地住民と一体となった直接活動を続けています。

- 国民の豊かさを表す「人間開発指数」で、モザンビークは193カ国中182位（2025年度、日本は23位）。
- モザンビークの首都から最も離れ、社会投資・社会支援が放置され「忘れられた州」と呼ばれるカーボデルガド州を拠点に活動。
- 貧困率が国内でも最も高いカーボデルガド州は巨大天然ガス開発で世界的注目を浴びるも、紛争が発生し、住民は命の危険にさらされたまま。
- この地で、私たちは、2013年からスラム地区の中心に住みながら現地有志総勢100名とともに地道な直接活動を続けています。

不可視化され、支援もされないエリア。

モザンビーク北部で活動を行う草の根NGOは当会のみ。

- 先進国が開発を進める中で社会問題が顕在化し、国連系機関や日本を含む開発国が多額の資金をモザンビークに提供。
- しかし残念ながら、スラムの住民たちにその国際支援が届くことは、**ほとんどないのが現状**です。
- グローバル資本主義の「支援・開発」に着目した、マネタイズ化（お金を稼ぐ仕組み）が拡大。
- 間接的な支援は実際に現地に届かない場合もあり、現地主体となった「直接支援」がますます重要になっています！



真っ当で実直な活動を続ける。

なおざりにされた人たちの命を確実に守り、力強く未来を拓く。

- 「生きる、学ぶ、創る」活動を通し、「今日を生きる」から「未来に生きる」生活の改善を行っています。
- 貧困地域で住民と同じ暮らしをすることで得られる厚い信頼を基盤に、ほんとうに住民が必要としている施策を実行。
- 住民一人ひとりの状況を把握し、机上の空論スピード主義ではなく、じっくり成長を促す発酵感覚で取り組んでいます。

アフリカの最貧困地で続けてきた教育、人道支援活動を糧に、

日本で、共に創り、響き合う、共育プログラムを実施しています。



活動内容とスローガン

モザンビーク北部の支援の光の届かないエリアで 途切れることなく活動を続け、13年!!

教育活動

スラムの学び舎・寺子屋

スラムの子どもたち約350人が通所

公衆衛生活動

コレラ・HIV予防

感染症による死亡率ゼロを達成中

水環境活動

井戸、共同水場整備

危機的かつ慢性的な水不足を解消

環境保全活動

食べられる緑化、美化

環境問題と貧困問題を両立し改善

紛争被災者支援活動

平和の家の建築運営

避難施設・平和の家運営と食料・衣料配布

国際交流活動

国際相互理解推進

日本・欧州でのイベントの実施

モザンビークのいのちをつなぐ会は「**小さいけれど、チカラ持ち!**」を
スローガンに、スラム地区の100名のメンバーとともに、社会支援のジレンマをおこさない、
実効力ある**直接活動**を、地道かつ確実に遂行する**真の草の根NGO**です。



主な表彰履歴

第7回 SDGs ジャパンスカラシップ 岩佐賞

教育賞を受賞。
SDGs（持続可能な開発目標）の17の分野で活動し、めざましい功績を残した個人・団体を支援するために贈られる賞。困難なエリアでの教育活動の継続を評価され受賞。
公益財団法人岩佐教育文化財団
2026年3月受賞



第1回 風に立つライオンオブ・ザ・イヤー

日本国内外で命や平和を守るために献身的に活動している個人・団体を表彰。財団設立者のさだまさしさんの楽曲で、困難があっても強く、人の命を助けたい、という生き方を意味する「風に立つライオン」。そのモデルとなった医師・柴田紘一郎氏を冠し、海外で活動する個人・団体を表彰する「柴田紘一郎賞」を受賞。第1回の表彰です。
公益財団法人風に立つライオン基金
2023年11月受賞



風に立つライオン基金
設立者のさだまさし
さんと当代表榎本、
寺子屋ディレクター
ナジャ。

第60回 社会貢献者表彰

社会と人々の安寧と幸福のために尽くし、顕著な功績を挙げながら報われる機会の少なかった方々を表彰し、日本財団賞を贈るもの。財団の会長は安倍昭恵氏。
公益財団法人社会貢献支援財団（FESCO）
2023年11月受賞

財団会長の安倍昭恵さんと
当会代表榎本、寺子屋ディ
レクターのナジャ。



第27回 地球倫理推進賞

活動が営利を目的とせず、5年以上継続し教育・文化・医療・環境・地域開発などの分野において、地球倫理の推進に貢献している団体を国内・海外各1団体表彰。
一般社団法人倫理研究所
2024年3月受賞



文部科学大臣賞

様々な分野で顕著な活躍
或いは成果を挙げた個人
又は団体に対し、文部科
学大臣の名により授与す
る賞。
文部科学省
2024年3月受賞

当会国内調整員水淵と
代表の榎本、国内部門
受賞のJAMネットワーク。





活動概要

2026年度（7月～12月）の講義公演ワークショップの場を募集中。

内戦や貧困を乗り越え、NHK等でも紹介されたモザンビークの社会活動家・アーティストであるナジャ氏との交流を通じたプログラムを計画しています。

ナジャと当会代表・榎本によるライブ&トークをメインに、ご希望により時間や内容も柔軟に対応いたします。

ワークショップのポイント

アートによる「共創」

音楽や絵画という非言語ツールを用い、言葉の壁を超えて「他者と響き合う」成功体験を提供します。

テクノロジーによる「没入」

360度VR映像を通じて、アフリカの生活を「自分事」として体感。物理的な距離を超え、多角的な視点を養います。

レジリエンスの継承

ナジャ氏の圧倒的な「生き様」に触れることで、困難をクリエイティブに乗り越えるマインドセットを育みます。

ワークショップの内容

Peace Grooveライブ&トーク

- ナジャによる音楽と紛争の体験語り。音楽の合唱、合奏も実施。
- 芸術と実体験を融合し、平和と共助文化の価値を伝える。

Nico Ichi国際絵画制作

- 日本とモザンビークの子どもたちが一枚の絵を共同制作。（モザンビーク寺子屋で絵を最初に書き、持ち込み）
- 異文化理解と協働を体験的に学び、共生意識を高める。

VR国際交流体験

- 360度カメラで撮影したモザンビークのスラムの暮らしを体験。
- 遠隔地でもリアルな生活世界を共有し、共感を育む。

リズムセッション

- 太鼓やLEDグローブなどを用いて身体の動きとリズムをあわせる。

One World for peace発表

- 参加者自身が「平和とは何か」を一言で表現・共有。
- 主体的に考え、言葉や、絵で、平和を表現するチカラを養う。



NHK メディア紹介

2024年から2025年にかけて、**NHK**の取材を受け、**当会代表および社会教育活動（講義公演）を共に行うナジャが、それぞれ番組化され、放送中。**



Nadja performs at an elementary school with fourth-graders

A Melodic Wish for Peace 平和を願い歌う / ナジャ

Where We Call Home

We meet a foreigner who live in Fukuoka Prefecture, starting with Mozambican singer-songwriter Nadjambula in Kitakyushu

Broadcast on February 17, 2025 / Available until February 17, 2026



日本語版動画



Breaking the Poverty Cycle Through Education: Enomoto Megumi / CEO, Bridge for Lives in Mozambique 教育を通じて貧困の連鎖を断ち切る

モザンビークのいのちをつなぐ会 榎本恵

Direct Talk

Enomoto Megumi opened free learning centers modeled on traditional Japanese temple schools to provide education for disadvantaged children in Mozambique. She talks about breaking the poverty cycle.

Broadcast on November 12, 2024 / Available until November 12, 2027



英語版動画



ナジャについて

爽やかでカブよく美しい歌声。マコンデ語、マクワ語、スワヒリ語、ポルトガル語など7言語で作詞作曲。多言語による越境的な表現が、国・民族・世代を超えて人々の心をつなぐ。その表現力はモザンビーク国内外で高く評価！

Afro Makonde
MUSIC
NADJA
from Mozambique

Nadja

ナジャ (マコンデ民族)

1987年、内戦中に、モザンビーク・カーボデルガド州のマコンデ民族の故郷・ムエダで生まれる。3歳の時に戦火を逃れるため、母に背負われ、二人の姉とともに、州都ペンバに移住する。東アフリカで人気を博したミュージシャンであり戦争被害者の救済にも注力した叔父のナングンドに引き取られ、音楽と共に生きる暮らしが始まる。バンドを結成した18歳の頃に、ナングンドが交通事故で亡くなり、その意志を受け継ぎ、音楽を通じた社会貢献にも積極的に携わる。ナジャが暮らす州最大の貧困地区での日々の暮らしや、マコンデの誇り、昔物語を歌にのせ、伝統音楽を礎とした独自の音楽性で注目を集める。モザンビーク国内最大の音楽祭をはじめ、GALA、アフリカの政府要人の会合での演奏も増え、国民的アーティストに。2015年より日本、欧州での音楽公演を開始しこれまで500箇所以上で、公演を行う。モザンビークのいのちをつなぐ会とは設立前の2012年より現在にわたり協力。2019年にはペンバ青年共同組合を立ち上げる。

• Nadja's Album

Album: **People of Mozambique**
Produced in 2015
Recording in Pemba, Mozambique
Mixing in Pemba, Mozambique



Album: **Makonde Milele**
Produced in 2018
Recording in Osaka, Japan
Mixing in Osaka, Japan



• Nangundo's Album by Nadja

Album: **Homenagem**
Album on CD in 2015
Recorded by Radio Mozambique
in the 1980s and 1990s





これまでのナジャとのトーク&ライブ授業

ナジャとの講義公演

モザンビークの国民的ミュージシャンで、社会活動家であるナジャがやってくる！戦争や助け合って生きるスラムの暮らし、いじめを知らない子どもたちの暮らし等子どもたちが目からウロコのお話と、ナジャの弾き語りを披露します。

ナジャの美しく力強い音楽とトークを組み合わせ、エゴから共生への意識と行動の変化を促したい。

目的

平和意識や相互扶助力の向上。
ひいては安寧な世界の創造に貢献する。

内容

【ナジャの弾き語り】

内戦を体験した平和に対する思いや、モザンビークの暮らしや民族、日々の出来事を歌にした、ナジャのマコンデ語・マクワ語・スワヒリ語・ポルトガル語を用いたギターの弾き語り演奏。

【トーク・榎本恵&ナジャ】

- ・資源開発と紛争 ・スラムの暮らしや食、調理、住環境、子どもたち
- ・貧しすぎても助け合い、生を支えるスラムの習慣 ・呪術
- ・気候変動の影響によるサイクロンの上陸

実績

600公演以上、2.4万人の動員。

- ・2015年から2025年まで、アフリカ・欧州・日本で公演
- ・2024年度の公演：全39講義・公演 参加者：3,878名
- ・世界各国のアーティストとの共演実績多数



門真市の小学校での講義



コミュニティスペースでのライブ



パーカッションレクチャー



日本でレコーディングした音楽アルバム



北九州親善ソング『Let's go Kitakyushu』



寺子屋キッズと作った平和の歌



音楽劇『YASUKE』のテーマソング提供、出演。



代表とナジャの紹介

代表理事・モザンビーク事務局長 榎本 恵 Megumi Enomoto



- ◆ 福岡県北九州市小倉生まれ。ペンバ・ナティティ地区在住。
- ◆ 大学卒業後、広告代理店でプランナー&コピーライターとして勤務。
- ◆ 2000年、起業・事業拡大支援を行う Planning MAY を開業。
主に環境・農業・通販・教育系企業のビジネスサポートを手がける。
- ◆ 2012年、日系企業のモザンビーク進出をきっかけに、
初めてアフリカの地を踏む。半年間、新規事業開発業務を行う。
- ◆ これまで後進国の開発地区で目の当たりにした、「取り残された貧困層の人々の問題」、「先進国の開発論理と後進国貧困層のニーズのジレンマ」を少しでも解消すべく、2013年4月『NGOモザンビークのいのちをつなぐ会』を設立。
2018年12月、一般社団法人化。



Nadja (ナジャ)

- ◆ 1987年、カーボデルガド州ムエダ村生まれ。マコンデ族。4歳の時に内戦の戦火を逃れ、ムエダからペンバへ移住。東アフリカで名を馳せたミュージシャンの叔父・ナングンドと同居し18歳の時に自分のバンドを結成。
- ◆ 叔父に倣い、音楽を通じた社会貢献活動が続ける。アフリカ圏内の大統領などの要人の会合やチャリティーGALAでの演奏機会が増え、国民的ミュージシャンに。
- ◆ 2013年モザンビークのいのちをつなぐ会設立時から活動に協力。
- ◆ 2015年から日本や欧州でも公演を行う。
- ◆ 2019年ペンバ青年共同組合設立。

